

令和6年度 学校経営計画・学校評価シート

高知若草特別支援学校子鹿園分校

《高知県の教育の基本理念》	(1) 学び意欲にあふれ、心豊かにたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を抱け、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	学校像 ○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を支援できる教育を行う学校 ○地域になくはない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校	目 向 指 け す べ き こ の 概 要 に
《取組の方向性》	《4つの基本方針》 ①「高知県」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための取組の推進 ②「高知県」の子どもと誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③「高知県」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「学校における働き方改革」、「チーム学校の推進・強化」、「教員等の人材確保に向けた取組」の一体的推進	児童生徒の姿 主眼の目指す具体的児童生徒像 【自分から挑戦する子】 考える子 挑戦する子 行動する子 (知)自ら学ぶ (情)意欲と意欲に自ら進んで学習する意欲や態度を身につけた児童生徒 (意)社会生活に必要な知識や技能・態度を身に着けた児童生徒 (能)意欲・協調力 (人)人や環境と積極的に関わり、自立(自律)し社会参加しようとする意欲を持った児童生徒 (心)お互いを認め合い、思いやりの気持ちで協働協力しようとする児童生徒 (体)健康・体力 ○卒業後も一人一人の持てる力を発揮し、将来にわたって豊かな生きるため、健康や体力・基本的な生活習慣を身に着けた児童生徒	(1) 学校教育目標、教育課程 日々の授業のつながりを意識したカリキュラムマネジメントサイクルの確立による児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成 (2) 卒業後の自立と社会参加を見据えた教育の充実と豊かな心の育成 (3) 教員の専門性の向上と指導力の育成 (4) 児童生徒の心と人権を守る安心安全な学校づくりの推進 (5) 特別支援教育のセンターとしての支援機能や情報発信、保護者・関係機関等との連携による開かれた学校づくりの推進 (6) 学校教育目標の達成をめざし、やりがい、働きがいのある学校組織の運営と働き方改革の促進

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
学校設定項目	教育課程の質の向上	○教育実習の実践や学習による基礎的な事項の作成、充実を図る ①学びの履歴と年間指導計画との関連を明らかにした指導と評価の実践を蓄積する。【Ⅱ・グループごとに2教科ずつ蓄積】 ②キャリアの視点を明らかにした指導を特化・総合、各教科で行う【公開授業単元・評価計画案に記載100%】	①学びの履歴と年間指導計画との関連を明らかにした指導と評価の実践を蓄積する。 ・単元・評価計画及び公開授業振り返りシートに年間指導計画や学びの履歴との関連を明記して蓄積する ・全教員が参観できる公開授業と研究協議の実施 ②キャリアの視点を明らかにした指導を特化・総合、各教科で行う。 ・児童生徒に付いた力を明らかにした指導と評価について検討する。	① グループで教科を決め、年間指導計画と実施した授業の関連を説明する。研究協議の内容をまとめたシートを活用して蓄積する。全校参加の公開授業を実施し、指導と評価について実証的に直接学び、全校で共有することでグループの実践に活かす。 ② 準ずる教育課程を対象にした公開授業の際にはキャリアの視点を明記した指導案をもとにして公開授業及び研究協議を開始した。(1学期2件)	① 公開授業後は、授業者が必ず年間指導計画と実施した授業の関連を説明する。研究協議の内容をまとめたシートを活用して蓄積する。全校参加の公開授業を実施し、指導と評価について実証的に直接学び、全校で共有することでグループの実践に活かす。 ② 公開授業の振り返りでは、キャリア教育の年間計画と、グループ研究ではキャリア教育の視点に立った教科指導の工夫について研究し、全教員で学ぶ公開授業と協議を行う。	① 公開授業は全学年で実施した。授業後の協議の中で年間指導計画との関連の説明の項目を作ったことで意識した取組となった。また、校内研究でクラスで1年間、研究する教科の年間指導計画・単元・評価計画案の作成や授業の振り返りができたが、学習評価の充実には十分な到達とはならなかった。【グループごと2教科の実践事例のまとめは年度末まで継続】 B+ ② 準ずる教科指導の中で、キャリア教育の視点を明らかにした公開授業を実施した。全教員で高等部数学の授業を参観し、キャリア教育で育成したい力について協議を行った。キャリアプランに沿った指導を行うことができたが、キャリアパスポートに効果的に活用するに至らなかった。 【学年末の教育課程におけるキャリアの視点を明記した公開授業実施率 100%】	・公開授業、みんなで見合うのはよい取り組みである。1人がやる取組を共有して全体のレベルを上げるのはよい。 B+ ・キャリアの視点をこれからは教科に取り入れてほしい。	・教員の授業力の向上を目指し、授業を見合う取組は継続する。どの公開授業においても指導と評価について、重点的に協議を行うなどして、評価の在り方を検討できるようにする。 ・キャリアプランに沿った取組は継続する。教科横断的にキャリアプランに沿った指導内容を工夫する。
教育課程の質の向上	○キャリアを含めた視点で子どもの年間重点目標を設定する ○自立活動と教科の関連性の理解と時間の指導の充実を図る ○個別最適化をめざすICTの効果的な活用を図る	○授業や家庭学習、テスト等でICTの活用事例の増加。児童生徒が学びの選択ができるようになった。 ●各教科等の指導と評価の観点から、指導内容の設計が丁寧である。 ①関係機関と連携をとりながら自立活動の理解を深め、指導内容の充実を図る。 ②児童生徒が自らICTの活用や学び方を選択することや活用できるための指導を行う。 【Ⅲ・肯定的評価①教職員、②児童生徒80%以上】	①関係機関と連携をとりながら自立活動の理解を深め、指導内容の充実を図る。 ・自立活動の理解や指導内容、各教科等の指導との関連について研修の実施。 ・単元・評価計画に自立活動の配慮事項を明記し、具体的な指導を行う。 ・関係機関の助言等を活かしながら、肢体不自由教育の専門性向上に向けた研修等の継続。 ②児童生徒が自らICTの活用や学び方を選択することや活用できるための指導を行う。 ・児童生徒の学習上の効果的な利活用の充実に向けた指導事例紹介や、相談できる環境設定により教員が学び、指導に活かす。	① 肢体不自由教育の専門性向上のために自立活動充実事業のカンファレンスの方法を検討した。学部やクラスの特を超え、様々な事例から学ぶ機会をすることで実態に応じた支援について学習できた。夏季休業中の流れ関係研修を経てクラスごとに児童生徒一人一人の実態を丁寧に見直し、9月からの目標設定を全員で行った。 B ② 準ずる教育課程の学習において、Figma等新たなツールを使用できている。情報・ICT係による研修により教員の学びが進んでいる。	① 自立活動の指導について目標に沿った指導を確実にするために外部専門家の活用と助言を校内で共有できる仕組みでの取組を継続する。また、全教員が取り組む公開授業では単元・評価計画表に自立活動の配慮を明記し、説明したうえで研究協議することで、指導者一人一人が意識をし、個々の目標に沿った指導を行うことを目指す。 B ② ICTの研修を経て、児童生徒が活用するための指導事例の共有を進める。特に、Ⅲ類型の児童生徒については、学び合うためのツールの活用を進め、より主体的な学びの姿を目指す。	① いずれの類型の公開授業においても自立活動の配慮事項を記載し、授業後の協議でも触れることで、意識した指導ができている。それぞれの児童・生徒の実態に応じた指導の質の向上を目指してことが今後の課題である。 B+ ② 教員の課題意識に応じ、継続的に研修を実施した。(全体研修「自己啓発」活用に対する教員の肯定的評価は高いものの、児童生徒の学びのツールとして効果感にない児童生徒が8%程度いる。より効果的な活用方法や実態に応じた方法の検討は必要であり、教員の知識や技能を常にアップデートしていくことが必要である。) 【学校評価アンケートにおける肯定的評価 ①教職員84.4% ②児童生徒75.3%】	・専門家の意見をみんなで聞いてレベルを上げていくことは大事。 ・教員同士との教え合い、学び合いは大切である。 B+ ・ICTは遊び方や学び方、個人によって使い方が教員が知るようになっている。 ・卒業後を見据え、視認入力装置やスイッチで自分から発信できる工夫を促している。実態が異なっても友だちと共同活動ができる方法を考えてくれている。(保護者委員)	・自立活動を中心とした肢体不自由特別支援学校としての専門性の向上にむけ、組織的な取組を継続する。 ・ICTを学習の効果的なツールとできるよう、教科の目標を達成するための使い方について個別最適化を進める。
教員の専門性の向上	○自立活動と教科の関連性の理解と時間の指導の充実を図る ○個別最適化をめざすICTの効果的な活用を図る	○様々な文化芸術に触れる機会が設定できている。 ●環境教育に関する取組は全クラス実施。 ●各教科に環境教育を統合し、学習内容に反映させている児童生徒が多い。(情報的評価の15%) ①社会参加に繋がる文化芸術、スポーツ活動の取組を推進する。 ②取組を環境やSDGsの視点で整理し、具体的な指導や情報発信を行う。【学期ごと2事例以上ずつで配信】	①社会参加に繋がる文化芸術、スポーツ活動の取組を推進する。 ・交流及び共同学習や芸術・スポーツをツールとした、紹介したりする。 ・全校集会で発表するなどして活動を充実させる。 ②取組を環境やSDGsの視点で整理し、具体的な指導や情報発信を行う。 ・環境教育推進教員を指定し、教育活動を整理するとともに情報提供・発信を行う。	① 芸術鑑賞会では能楽に触れ、感じたことを文章で表現する取組を実施した。全校集会では5グループを中心として音楽の学習の成果を発表した。紙と遊ぼう作品展に出展下中等部の作品が大賞受賞と、児童生徒自身も満足した学習を進める。 B- ② 環境教育についての取組をピックアップするタイムラインで広報した。(1学期6件)取組の具体的な整理は今後の課題。	① スポーツ交流会や校作品交流会への参加や運営について児童生徒部を中心に進める。全校集会では全児童生徒の作品を展示して学びの機会とする。12月の全校集会では修学旅行や、日々の学びをまとめ、伝える力を発揮する場とする。子ども・児童等への発展も意識した学習を進める。 B ② 環境教育推進教員を中心とした情報発信を継続する。授業の中で取り組んでいる内容を改めてSDGsの視点で明らかにし、児童生徒に伝え、意識づけを図る。	① 交流及び共同学習や、地域との交流においてポッチャを扱った。全校集会では小、中、高等部とも音楽発表ができた。作品展示は、4校共同作品も含め、全クラスが作品を出品するなど意欲的に取り組んだ。対外的なスポーツ大会への参加は選手が固定化傾向があるため、PTA行事でポッチャに取組むなど、全児童生徒の取組への機会提供を行ったが、社会参加につながることに限界が感じられる。 B ② 環境教育推進教員を中心とした情報発信を継続して実施した。授業の中で取り組んでいる内容を改めてSDGsの視点で明らかにし、児童生徒に伝え、意識づけを図る。	・スポーツ等好きではないのと、評価があつて経験させてあげるとよい。 B ・授業の中でのいろいろな競技に取り組むことも卒業後の余暇等に活かせるので在学中からやっておくのはよい。 ・卒業生への話を聞くなど、課題を卒業生の具体的な内容につなげたい。	・授業を中心に取組を進め、新たなスポーツや芸術に触れる機会を作る。 ・「未来を支える環境教育」について、実態に応じた指導内容等について本校等の実践を参考にしながら取り組む。
キャリア教育の充実	○子どもたちの豊かな生活につながる文化・芸術、スポーツ活動の充実を図る ○子どもたちの未来を支える環境教育を推進する	○子どもたちの豊かな生活につながる文化・芸術、スポーツ活動の充実を図る ○子どもたちの未来を支える環境教育を推進する	○子どもたちの豊かな生活につながる文化・芸術、スポーツ活動の充実を図る ○子どもたちの未来を支える環境教育を推進する	① 芸術鑑賞会では能楽に触れ、感じたことを文章で表現する取組を実施した。全校集会では5グループを中心として音楽の学習の成果を発表した。紙と遊ぼう作品展に出展下中等部の作品が大賞受賞と、児童生徒自身も満足した学習を進める。 B- ② 環境教育についての取組をピックアップするタイムラインで広報した。(1学期6件)取組の具体的な整理は今後の課題。	① スポーツ交流会や校作品交流会への参加や運営について児童生徒部を中心に進める。全校集会では全児童生徒の作品を展示して学びの機会とする。12月の全校集会では修学旅行や、日々の学びをまとめ、伝える力を発揮する場とする。子ども・児童等への発展も意識した学習を進める。 B ② 環境教育推進教員を中心とした情報発信を継続する。授業の中で取り組んでいる内容を改めてSDGsの視点で明らかにし、児童生徒に伝え、意識づけを図る。	① 交流及び共同学習や、地域との交流においてポッチャを扱った。全校集会では小、中、高等部とも音楽発表ができた。作品展示は、4校共同作品も含め、全クラスが作品を出品するなど意欲的に取り組んだ。対外的なスポーツ大会への参加は選手が固定化傾向があるため、PTA行事でポッチャに取組むなど、全児童生徒の取組への機会提供を行ったが、社会参加につながることに限界が感じられる。 B ② 環境教育推進教員を中心とした情報発信を継続して実施した。授業の中で取り組んでいる内容を改めてSDGsの視点で明らかにし、児童生徒に伝え、意識づけを図る。	・スポーツ等好きではないのと、評価があつて経験させてあげるとよい。 B ・授業の中でのいろいろな競技に取り組むことも卒業後の余暇等に活かせるので在学中からやっておくのはよい。 ・卒業生への話を聞くなど、課題を卒業生の具体的な内容につなげたい。	・授業を中心に取組を進め、新たなスポーツや芸術に触れる機会を作る。 ・「未来を支える環境教育」について、実態に応じた指導内容等について本校等の実践を参考にしながら取り組む。
働き方改革	○各部署等でミーティングを日常的に実施し、情報共有がされている。 ●各部署等で多様な話し合いが、業務改善に繋がっている。 ①教育活動の充実のための業務の在り方や改善を検討する。 ②業務の効率化を図るための魅力的な職場環境の創出に向けて取り組む。 ③不祥事防止に係る定期的な意識啓発を図る。	○各部署等でミーティングを日常的に実施し、情報共有がされている。 ●各部署等で多様な話し合いが、業務改善に繋がっている。 ①教育活動の充実のための業務の在り方や改善を検討する。 ②業務の効率化を図るための魅力的な職場環境の創出に向けて取り組む。 ③不祥事防止に係る定期的な意識啓発を図る。	○各部署等でミーティングを日常的に実施し、情報共有がされている。 ●各部署等で多様な話し合いが、業務改善に繋がっている。 ①教育活動の充実のための業務の在り方や改善を検討する。 ②業務の効率化を図るための魅力的な職場環境の創出に向けて取り組む。 ③不祥事防止に係る定期的な意識啓発を図る。	①教育活動の充実のための業務の在り方や改善を検討する。 ②業務の効率化を図るための魅力的な職場環境の創出に向けて取り組む。 ③不祥事防止に係る定期的な意識啓発を図る。	① 教材研究や分掌業務に充てる時間の確保に向けた取組を進めるとともに、各部署単位での取組を明らかにしていく。 B- ② 教室・職員室の環境整備についてアナウンスが不十分であるため、整備が不足していたり明らかな改善に至っていない。 B ③ 不祥事防止研修(ハラメント、個人情報保護)の実施。不祥事防止委員会が事前内容の検討を実施した。	① 教材研究や分掌業務に充てる時間の確保に向けた取組を進めるとともに、各部署単位での取組を明らかにしていく。 B ② 環境整備については職員等が継続的に意識づけをする。職員室の机やモニター上での個人情報の管理については短時間の不祥事防止の研修等を取り入れる等正し、職場環境の整備や適切な個人情報管理を進める。 ③ 不祥事防止委員会が定期的に開催した。全員が年2回、管理職と不祥事について個別に面談の中で扱うことで、意識の啓発を図ることができた。研修や学部・クラスでの話し合いなどを行ったが、年間を通じた計画的な取組ができず、教職員の負担感につながった。	・不祥事防止委員会を作ればよい。良い取組を認め合うのはもちろんマイナス面を出すことも大切。 ・不祥事防止研修(ハラメント、個人情報保護)の実施。不祥事防止委員会が事前内容の検討を実施した。 B ② 教室・職員室の環境整備についてアナウンスが不十分であるため、整備が不足していたり明らかな改善に至っていない。 ③ 不祥事防止研修(ハラメント、個人情報保護)の実施。不祥事防止委員会が事前内容の検討を実施した。	・不祥事防止委員会を作ればよい。良い取組を認め合うのはもちろんマイナス面を出すことも大切。 ・不祥事防止研修(ハラメント、個人情報保護)の実施。不祥事防止委員会が事前内容の検討を実施した。 B ② 教室・職員室の環境整備についてアナウンスが不十分であるため、整備が不足していたり明らかな改善に至っていない。 ③ 不祥事防止研修(ハラメント、個人情報保護)の実施。不祥事防止委員会が事前内容の検討を実施した。